

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900315		
法人名	株式会社 ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラスト西宮		
所在地	兵庫県西宮市本町2-13		
自己評価作成日	2021年4月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	2021年4月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居者様はもちろんのこと、ご家族様にも安心して頂けるように、日々のご様子をご家族様にお伝え話し合いをしながら、その方らしい生活を送っていただく。 ・24時間対応して頂ける病院と連携して、また必要に応じて専門医とも繋がりがながら大切な時間を過ごしていただき、ご希望して頂けるのなら看取りまで行っていく。 ・ホームの職員だけでなく地域の方にもご協力いただきご入居様の生活を支えている。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>例年は、家族・地域との交流に積極的に取り組み、利用者が家族や地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。現在は交流や外出が困難な状況であるが、定期的なカンファレンスで利用者の現状に即した自立支援に取り組み、利用者個々に応じたレクリエーションや家事に参加する等、利用者が生活の中で楽しみや役割が持てるように支援している。主治医と24時間体制で連携を密に取り、往診時には薬剤師の同行があり、また、法人から週1回の看護師の訪問もあり、医療連携体制が充実している。希望があれば、看取り介護にも対応している。研修体制・人事考課制度・各種面談等により、法人として職員の資質向上とサポートに努め、サービスの質向上に向け取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・各フロアに掲示、職員は理念カードを各自持ちいつでも共有実践できるようにしている。ご家族様への毎月の便りに明記している。	法人の理念・基本方針を共有し、基本方針に地域密着型サービスの意義を明文化している。入職時オリエンテーションでの説明、玄関・多目的ホール・各フロアへの掲示、理念カードの携帯等で、職員の共有と意識付けに努めている。また、毎月家族に送付する「ソラストだより」にも理念を掲載し、家族等とも共有を図っている。管理者は、日常の業務の中で理念に沿った支援ができるよう意識付けに努め、理念の実践に努めている。	ソラスト目標・フロア目標・キャリアパス評価(個人の目標管理)に理念の達成に向けた目標を設定し、フロア会議・評価面談時に実践状況の振り返りを行う等、理念の実践に向けた具体的な取り組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板での案内や、年間当番など受け持っている。コロナ禍になってから難しいがそれまでは近隣の保育園児との交流等もっていた。	例年は、買い物や外出に出かけ、近隣保育園児や、音楽演奏会・クリスマス会・夏祭り等に地域のボランティアの来訪があり、地域住民と交流する機会を設けている。(今年度は休止している。)現在は、場所・時間など感染防止に配慮しながら、近隣への散歩や家族の協力を得ながら馴染みの美容院の利用を支援している。自治会に加入しており、回覧板の回覧や年間当番、民生委員との連携は継続している。また、電話や来訪による地域住民からの相談にも対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせ等に対してグループホームにこだわらず、その方にあったサービス考えお話しさせていただき、詳しくお知りになりたいサービスがあればグループの施設からお話しして頂くようにする。		

グループホーム ソラスト西宮

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面開催が続いているが、2か月に1回開催し助言や意見を頂くようにして、今後に取り入れていくことを考えている。	家族代表、西宮市権利擁護支援員、民生委員（地域代表）、他事業所管理者（知見者）を構成メンバーとし2ヶ月に1回開催している。令和2年度は、全回、書面会議で実施している。入居者状況・行事・感染予防策・前回意見に対する回答等を記載した資料を、構成メンバーに郵送して報告している。「ご意見ご助言記入用紙」を同封して返送を依頼し、書面会議での意見や助言を運営やサービスに反映できるよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議議事録は、個人情報に配慮したうえで、設置等により公開することが望まれます。また、資料を全家族に郵送し、事業所や利用者の状況を報告してはどうか。 ・コロナ禍終息後には、可能な範囲で、利用者の短時間参加等を工夫してはどうか。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所より送られてくるメールに対して必ず確認・必要な場合は返信する。また不明な点については担当者に直接確認する。集団指導についても必ず参加するようにする。	運営推進会議を通して、市との連携がある。市から新型コロナウイルス関連等の情報提供を受け感染予防対策に反映し、事業所からも対応状況等を報告している。市の集団指導に参加し、また、相談や疑問があれば市の担当窓口から助言や回答を得て、適切な運営に取り組んでいる。例年は、「西宮市グループホーム連絡協議会」に参加し情報交換を行っている。（現在は休止中）	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの考えのもとに、3か月に1回行う身体拘束適正委員会以外にも事故などのリスクがある方の対応について話し合いを行う。	身体拘束適正化のための指針とマニュアルを整備し、玄関にも設置し、身体拘束をしないケアを実践している。3ヶ月に1回、管理者・各フロアリーダーが参加して、身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束事例ゼロの確認と、言葉による行動制限を含めた適正化のための検討を行っている。委員会議事録を作成し、回覧印により全職員への周知を確認している。入職時研修と共に、年間計画に沿って「身体拘束の排除と高齢者虐待防止」について研修を実施し、受講者は研修レポートを提出している。今年度は、資料研修を実施し、マニュアルの再確認と研修レポート提出により周知を図っている。エレベーター、玄関は安全面に配慮して開錠に操作が必要であるが、外出の意向があれば職員が対応し、また、屋上で気分転換を図る等、閉塞感を感じないよう支援に努めている。	

グループホーム ソラスト西宮

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職研修時に含まれており、年間の研修にも事例検討を含め行い、面談等でも伝えるようにする。	「虐待防止」についても、上記と同様の方法で年間計画に沿って研修を実施している。気になる言葉かけや対応があれば、管理者が注意を促し、また、毎月のフロア会議で利用者の介助や対応の方法を検討する等、不適切ケアの防止に取り組んでいる。入職時のエルダー制度・管理者からの日常的な声かけ・キャリアパス評価時面談・ワンオンワン(1on1)面談制度等、相談しやすい環境づくりに努め、職員の不安やストレスがケアに影響しないように取り組んでいる。法人としても、ストレスチェックの実施・相談窓口の設置など職員のメンタルケアを行う仕組みがある。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に個人的に研修を受けたことがあるが、相談を受けた時に理解できるように再度学びの場をつくるようにする。	権利擁護に関する制度についての研修の実施には至っていない。現在、成年後見制度を活用している利用者はいないが、今後、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が窓口となり、本部や権利擁護支援センター等関係機関と連携して支援する体制がある。	権利擁護に関する制度についての研修を行う等、職員が一定の知識を習得できる機会作りが望まれます。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時にパンフレットの内容やよく聞かれる内容そして入居までの流れを説明し、契約時には読み合わせを行い、疑問や不安ないように行っている。	入居希望があれば、見学時にパンフレット等で入居までの流れ・サービス内容の概要を説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って、質問に答えながら丁寧な説明に努めている。医療体制・利用料金・リスク説明等について、特に詳細に説明している。契約内容改定時には、「変更契約書(変更部分)」を郵送し、電話で説明の上同意を得ている。契約終了時には、契約書の条項に沿って、病院・施設等に情報提供し、利用者が円滑にサービス移行ができるよう支援している。	

グループホーム ソラスト西宮

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。コロナ禍で面会が制限されているが来られるたびに様子を伝えるほかに、普段にない出来事があつた場合は電話で伝えるようにしている。	通常は、家族の面会時・電話連絡時に近況を伝え、意見・要望の把握に努めている。家族会・クリスマス会・敬老会の開催時、「ご意見箱」の設置等でも、意見・要望の把握に努めている。現在は、面会を時間予約制にしているため、主に電話連絡時に生活の様子を伝え、毎月郵送する「ソラストだより」を継続し、写真を掲載して生活や行事の様子を伝え、意見・要望が出しやすいように取り組んでいる。把握した意見、要望等は、業務日誌に記載して共有している。利用者の要望は日々の会話の中で把握に努め、個別の「申し送りノート」「介護記録」等で共有し支援等に反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談意見を聞くほかに、出勤時と退勤時は各フロアに上がり各スタッフに挨拶・声掛けを行い、疑問や不安は家に持ち帰らないように伝える。	フロア会議を定期的に、リーダー会議を随時実施し、職員の意見・提案を反映する仕組みがある。フロア会議では、各フロア目標の確認、利用者支援・業務・行事等についての検討等を行っている。会議録の回覧によりフロア内の職員に、配布により管理者・リーダーに共有を図っている。人事考課面談(年2回)・ワンオンワン(1on1)面談(年4回)・随時面談など相談しやすい関係づくりに努め、管理者が個別に意見・提案を聴く機会を設けている。法人にも相談窓口を設置している。ディレクター等も参加す事業部会やメール連絡等で、管理者が職員の意見を上位者に伝える仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	Thanksポイントが管理者が各スタッフへ感謝の言葉伝えるものがある。また、現場からあがる施設の改修についても積極的に上に依頼していつている。		

グループホーム ソラスト西宮

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修があり、インターネットで学習できる仕組みで個人携帯で学習が可能である。また資格を取る際に法人や市から援助などあることも伝える。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で通常に連絡会が行えていないが、集団指導など集まる機会には参加し交流をしていく。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時点でご家族様にフェイスシートの補助シートをお渡しして生活歴や趣味嗜好など記入していただき、それを基にご本人とお話しながら関係を築いていく。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居されてしばらくは詳細に記録し、こちらからご様子を連絡するようにする。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはご本人とご家族の要望に沿って計画をたて、サービスをおこない必要に応じて変更していく。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事について強力して頂いたり、相談したり関係づくりを築いていく。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子などは面会時には必ずお伝えし、報告が必要だと思われることに関しては電話連絡しお願いできることはお願いする中で、共に支える関係を築いていく。		

グループホーム ソラスト西宮

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでのサービスをおしつけるのではなく、主治医や福祉用具のレンタル業者、いきつけの美容院などはご本人の希望を尊重する。	馴染みの人や場所についての情報があれば、入居時は家族記入の「フェイスシート(補助シート)」により、入居後は日々の会話の中で把握に努めている。入居後に把握した情報は「介護記録」「業務日誌」に記録し共有している。通常は、家族・友人の面会や個別外出を活用して、馴染みの関係が継続できるよう支援している。現在は、家族との面会を時間予約制にし、面会場所を多目的ホールに設定する等、可能な時期には家族と面会できるように工夫している。可能な利用者については、電話で会話ができるよう支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	よほどのことがない限り食事やおやつは一緒にとっていただき、全員がそろってからの食事を開始しお声掛けする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される際はホームでの生活様子がわかるような写真やデータをお渡しするようにする。また地域にすまれており、お会いしたらご挨拶やお話をせて頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフの気づきを大切に、どんな言動にたいしても意味を考え検討していく。	入居時は家族記入の「フェイスシート」・「アセスメントシート」・入居前のサービス事業所からの情報等から、また、入居後は、日々のコミュニケーションを大切にし、利用者の思いや暮らし方の意向の把握に努めている。日々のコミュニケーションから把握した情報は「介護記録」に記録し、「業務日誌」の「今日の気づき」欄に転記し、内容に応じてフロア会議でも共有している。把握が困難な利用者については、利用者の表情や反応から汲み取ったり、家族の意見・情報を参考にし、本人が希望する暮らしを支援できるよう努めている。	

グループホーム ソラスト西宮

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にフェイスシートの補助シートをお渡しして生活歴や趣味嗜好など記入して頂く。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の出来事を記録に残し、スタッフ間で意見をすり合わせ必要であればご家族にも相談し現状の把握に努める。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意向を伺い、介護記録などでフロア会議やリーダー会議、などで話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。	入居時に、入居前情報・フェイスシート・家族記入の補助シート・初回のアセスメントシート等をもとに、介護計画を作成している。介護計画・アセスメントシートファイルを各フロアに設置し、介護記録も同一ファイルに綴じ、計画に沿った実施を記録できるように工夫している。日々の実施状況を介護記録・健康チェック表等に記録している。月に1回のフロア会議でカンファレンスを実施し、各利用者の情報共有と現状に適した支援方法を検討している。大きな変化なければ、定期的には、1年毎にモニタリングシートでモニタリングを、アセスメントシートで再アセスメントを行い、介護計画を見直している。見直し時の検討は、フロア会議で行っている。	・モニタリング期間の設定の検討が望まれます。 ・介護計画見直し時期に合わせて、モニタリング・再アセスメント・カンファレンスを実施することが望まれます。フロア会議のカンファレンスに、介護計画見直し検討の位置づけを明確にすることが望まれます。フロア会議議事録の中に、利用者・家族の意向、関係者等の意見を記録しておいてはどうか。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートにご本人の言動を事細かく記入し、職員間で情報の共有を図っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のニーズに対応し、専門医や訪問リハやマッサージの利用、ボランティアにも協力も受けている。		

グループホーム ソラスト西宮

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で現状はボランティア等が来ていただけだが、コロナ禍が明ければ積極的に進めていきたいと考えます。	/	
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際には主治医はどうするかのお話の際に、かかりつけ医でもかまわないことをご説明するように説明を行っている。	契約時に意向を確認し、利用者・家族の希望に沿った受診支援を行っている。現在は、全利用者が協力医療機関から内科の定期往診を受け、薬剤師の同行もあり、24時間体制で医療連携の体制がある。月に4回、法人の看護師の訪問もある。必要時には、希望に応じて心療内科・泌尿器科・眼科・皮膚科・歯科等の往診を受けられる体制もある。通院による受診時は家族の同行を依頼し、事業所から医療機関に情報提供している。往診・通院時の受診結果は、医師別の「往診一覧表(報告事項・指示内容・処方内容)」「業務日誌」・個別の「申し送りノート」に記録し、職員・家族と共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐していないが、かかりつけ医の看護師とは連携をとっており、月4回グループから看護師くる体制をとっている。	/	
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心になって地域連携室に連絡をいれたり、必要に応じて病棟にも連絡するなどして正しい情報を交換している。	入院時は職員が同行し口頭で情報提供している。今後、書面での情報提供を検討している。通常は管理者が面会に行き、地域医療連携室や病棟関係者等と情報交換している。現在は面会制限のため、家族と連絡を取り合い、地域医療連携室とも電話で情報交換を行い、早期退院に向け支援している。把握した入院中の情報は「申し送りノート」に記録し、フロア内で共有している。退院時には、管理者が入院先医療機関と主治医との連携を図り、「看護サマリー」の提供を受け退院後の支援に活かしている。	

グループホーム ソラスト西宮

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と主治医・看護師とフロアリーダー(担当者)管理者を含めてカンファレンスを開き、主治医からは病状の説明、今後の考えられることを説明していただき、管理者からはホームでできることを伝え方針を決めています。	契約時に、「重度化した場合の対応に関わる指針」「看取りに関する指針」に沿って、重度化・終末期に向けた事業所の対応方針を家族に説明し、文書で同意を得ている。終末期を迎えた段階で、家族・主治医・看護師・管理者・フロアリーダーでカンファレンスを行い、主治医から状況を、管理者から事業所でできる事・できない事を説明している。家族から看取りの希望があれば、「看取りの同意書」で同意を得て、看取り介護に向けた介護計画を作成している。家族との連携を密にしながら、主治医・看護師・薬剤師など関係者と共に、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり連絡・報告が速やかに行われフロアに掲示しているが、今後は消防隊員情報提供書を作成、その中に必要される情報を入力予定。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災時の訓練を行い、推進会議で訓練の実施方法や結果を検討してアドバイスを受ける。	令和2年度も2回、当日出勤職員と可能な利用者も参加し、共に昼間想定で「火災時の避難訓練手順」に沿って訓練を実施している。例年は、民生委員が運営推進会議の構成メンバーであることから、会議でもテーマに挙げて話し合う機会を設け、地域との協力関係について助言を得ている。今後、自然災害時における地域との協力体制について検討を予定している。管理者が責任者となり、水・レトルト食品・懐中電灯・カセットコンロ等の備蓄を行っている。	夜間想定を含めた災害時訓練を実施し、昼夜を問わず避難できる方法を身につけることが望まれます。また、訓練後に、実施状況や評価・課題等を記録した実施記録を作成し、フロア会議や回覧などで、参加できなかった職員にも周知することが望まれます。

グループホーム ソラスト西宮

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時や年間の研修を行い、人格の尊重やプライバシーへの確保・声かけを行っている。会議でも声かけの仕方についても話し合っている。	入職時研修、及び、「プライバシー保護」「認知症ケア」「接遇」等の研修時に、尊厳やプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。日々の会話の中で気になる言葉かけ等があれば、管理者・リーダーが都度注意を促し意識向上に努めている。個人ファイル 類はスタッフコーナーの鍵のかかるロッカーに保管し、「ソラストだより」以外での写真等の使用に関しては「映像及び制作物の使用に関する承諾書」で家族の承諾を得ている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いを尊重し、自己決定が行えるように色々な場面で働きかけている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の思いやペースを大切にし、生活リズムをつけながら、起床や就寝などご希望に添えるように行っている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様のご希望に添えるように、化粧される方には継続していただけるように支援するなど、おしゃれのお手伝いをする。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房が手作りしたものをオープンキッチンになっている各フロアの職員が、ご利用者様に声かけしながら盛り付ける。食器洗いや拭きについてはご利用者様に手伝っていただく。	朝食は各フロアで調理している。昼食と夕食は施設内の厨房(委託業者)から届けられ、各フロアで炊飯・汁物づくり・盛り付け等を行って提供している。委託業者の管理栄養士が、栄養バランス・季節感・行事食等に配慮し献立を立てている。利用者個々の食事形態には各フロアで対応している。利用者の摂食状況や感想等は、適宜、管理者が業者に伝えている。利用者の好みや得意に応じて、食器洗い・食器拭き・盛り付け等に参加できるように支援している。例年は、外食・バーベキュー等食事の変化を楽しめる機会を設けているが、今年度は、誕生日をケーキや希望の献立で祝う等工夫している。	

グループホーム ソラスト西宮

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の栄養士が献立もので栄養バランスを管理、食事の形態などは主治医などに相談しながら決定、食事量・水分量はチェック表を確認しながら提供していく。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけしてやっていただいたりお手伝いをする。また必要に応じて訪問歯科に来て頂き、指示を受けながら行っていく。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンの把握し、生活リハの一環としてご自身でできることはやっていただき、機能維持や回復に努める。	「排泄チェック表」で利用者個々の排泄状況・排泄パターンを把握し、立位が可能な利用者には日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は安眠に配慮し、排泄用品・ポータブルトイレの使用を含め、利用者個々の状況に応じて対応している。利用者の状況に変化があれば、毎月のフロア会議で検討し、現状に適した介助方法や排泄用品の使用につなげている。誘導時の声かけ・アコーデオンカーテンの開閉・待機位置等、プライバシーや羞恥心への配慮に努めている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やマッサージ、牛乳やオリゴ糖など食品の工夫などして排便に努めるが、便秘が続くようであれば主治医に相談する。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、ご本人の体調や気分・希望を考慮して行う。同性介助を望まれているご入居者には適切な対応をする。	週に2回・午後入浴を基本とし、健康チェック表・入浴表で入浴状況を把握している。一般浴槽で一人ひとり更湯にし、好みの温度調整を行い、その人のペースでゆっくり入浴できるように支援している。必要に応じて、かかりつけ医や看護師から助言や指示を得て、利用者の体調等に合わせて安全に入浴できるよう対応している。同性介助の希望があれば同性で対応し、入浴を嫌がる利用者には無理強いせず声かけやタイミングを工夫する等、個別の配慮を行っている。好みのシャンプーの使用など、入浴がより楽しめるように工夫している。	

グループホーム ソラスト西宮

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の状態を考えながら、日中でも休息をとって頂いたり、夜間は安心して眠れるよう環境を整える。眠れないご入居者には、傾聴し寄り添う支援を行う。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認・管理し目的や副作用について主治医と提携している薬局に確認し変更等なども伝達をうけるようにする。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状コロナ禍で外部の交流が難しくなっているが、できるだけお答えできるように努める。洗濯や食事の片付けなど役割をもって頂く意味で一緒にして頂く。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は制限されているが、行きつけの美容院などについては、それ以外は立ち寄らないって条件で行っていただいている。	例年は、利用者の状況・希望に応じて、日課として近隣への散歩や買い物に出かけたり、季節の外出行事として初詣・花見・コスモス鑑賞等の機会を設けている。現在は、天気の良い日に感染予防に留意し、時間帯や場所を選びながら近隣への散歩や、家族の協力を得て行きつけの美容院などへの外出に留め、その他の外出は自粛している。また、屋上で洗濯物を干したり、外の風景を楽しむなど、外気浴や気分転換ができるよう工夫している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	気持ちがおちつくなどご希望されるご入居者に対しては持っていたくことは認めているが、財布から使用されることはない。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をご持参される方もおられるが、ご希望があればホームの電話を使用していただけようになっている。		

グループホーム ソラスト西宮

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに季節を感じていただける飾りつけを行い、ご入居者に合わせた室温・テーブル配置、音や光などが刺激にならないように配慮を行う。	各フロアに空気清浄器を設置し、温湿度管理、換気、手すり等の消毒、カーテン・すだれによる採光、音量などに留意し、清潔で快適に過ごせる環境づくりに努めている。各フロアの状況に応じてテーブル席・ソファ等の配置を工夫し、居心地よく過ごせるよう配慮している。車椅子は移動の手段とし、日常生活の中では椅子で過ごせるように支援している。利用者の家事参加を支援し、七夕やクリスマス等には飾りつけを行い、生活感や季節感が感じられるよう努めている。トイレの表示や居室の表札が目印となるよう工夫し、場所まちがいの防止に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置しくつろぎの空間を提供、スタッフはご入居者とお話しやすい状況をつくっていく。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箸や食器類、見慣れた家具をもってきていただいたり壁に装飾を飾って頂いたりして、ご自分の家であること感じていただけるように工夫する。	居室にはベッド・戸棚・洗面台が設置され、家族の協力を得て、タンス・椅子・テレビ等の家具、寝具、家族の写真、仏壇など、使い慣れた物や思い入れのあるものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう支援している。一人ひとりの身体状況・動線等に合わせた家具の設置をフロア会議で検討し、安全の確保に取り組んでいる。空気清浄器を設置し、感染防止や消臭等にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなど迷うことなくしようにできるように掲示したり、部屋に帰るときに迷わないように工夫する。		